

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	国際性に富む人材育成留学事業	実施計画 記載頁	355	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生をアメリカ、欧州、アジア、オセアニア、南米諸国へ1年間、大学生等を諸外国へ1年間から2年間派遣する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	80人 留学 派遣者数	100人			→	→	県
	高校生や大学生等の国外留学支援						
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
国際性に富む人材育成留学事業	226,348	201,764	・平成26年度派遣生及び平成27年度派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行った。また、様々な場で体験発表会を実施し、これから留学する生徒及び留学中の生徒への支援を行った。 ・平成27年度に選考された高校生75名を1年間、大学生等19名を1年間から2年間で世界各国へ派遣。 ・平成29年度派遣生の募集・選考を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
留学派遣者数			100人	94人
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	大学生等において、希望大学への合格が得られず6名が派遣辞退となった。帰国後アンケートの結果、高校生については語学力の向上以外に、「両親や他人に対する感謝の気持ちが増した」(84.3%)、「社会や世界の出来事への関心が増した」(75.7%)等の意識の変容がみられた。大学生等については、全員から留学の成果を今後の活動に活かすことについて、前向きな回答があった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源

様式1(主な取組)

国際性に富む人材育成留学事業	215,030	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度派遣生(修士課程)及び平成28年度派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行う。また、様々な場で体験談を発表する機会を設けると共に、これから留学する生徒及び留学中の生徒への支援を行う。</li> <li>平成28年度に選考された高校生80名を1年間、大学生等20名を1年間から2年間で国外の大学へ派遣する。</li> <li>平成30年度派遣生の募集・選考を行う。</li> </ul>	一括交付金(ソフト)
----------------	---------	--	------------

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>【高校生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促す。</li> </ul> <p>【大学生等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応募の際に、希望教育機関の入学要件と本人の語学力を示す資料の提出を求め、選考の際に考慮する。</li> </ul> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザルの企画提案書へ緊急時対応についても明記させ、派遣中から綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>	<p>【高校生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月末に行われる合同報告会(グローバルリーダー育成海外短期研修事業と合同)の際などに、長期留学者からのビデオメッセージ等を紹介したり、長期留学の体験講話などを紹介した。</li> </ul> <p>【大学生等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左記の改善案のとおり、募集要項に明示し実施した。</li> </ul> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左記の改善案のとおり明記を指示し、派遣期間中も報告・連絡・相談を行った。</li> </ul>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026人 (26年度)	1,358人 (27年度)	1,692人 (28年度)	↗	—
状況説明	海外留学・交流派遣者数は、H24年度→272人、H25年度→291人、H26年度→339人、H27年度→332人、H28年度334人と推移している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸外国においては、意思表示することで物事が解決が図られる。また、留学先で授業が理解でき、他の生徒や先生とコミュニケーションが取れる英語力が必要であることから、派遣する高校生の語学力の向上が必要である。</li> <li>大学生等において、希望大学への合格が得られないための派遣辞退があった。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際情勢の変化等による治安上の問題がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>長期留学の事前に、グローバルリーダー育成海外短期研修事業に参加することで、新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安も幾分解消される。</li> <li>外務省の海外渡航情報や大使館等からの情報を入手し、委託先を通して現地団体との連携を図っていく。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促す。</li> <li>プロポーザルの企画提案書へ緊急時対応についても明記させ、派遣中から綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>
--

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	アメリカ高等教育体験研修 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	355	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながら、ともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、アメリカの州立大学等へ高校生を50人派遣し、大学生活を体験させる。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	50人 派遣数				→		県
	高校生をアメリカの大学へ派遣し、体験交流を実施					→	
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
アメリカ高等教育体験研修	39,510	38,181	アメリカの州立大学へ高校生50人をH28年7月25日～8月15日の3週間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させる。 スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめとして事後研修を1回実施した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣数			50人(生徒50人)	50人(生徒50人)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	派遣者数は計画値どおり実施できた。 高校生50人をアメリカの州立大学へ派遣し、大学での語学、リーダーシップ研修を実施するとともに、ホストファミリーとの交流は異文化理解につながったと思われる。以上のことから交流の架け橋となる人材育成の基礎作りが図られたと考えられる。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
アメリカ高等教育体験研修	34,992	アメリカの州立大学へ高校生50人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させる。スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめとして事後研修を1回実施する。(派遣者数 高校生50名)	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。</p> <p>②平成27年度まではモンタナ州立大学及びヒューストン大学の2ヶ所へ派遣していたが、平成28年度より治安等の問題を勘案しヒューストン大学への派遣をとりやめ、モンタナ州立大学及び委託先提案によるアメリカ本国内他州大学での研修実施となることから、研修内容の均一化を図る。</p> <p>③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>	<p>①事前研修において、英会話能力向上を図るための外国語講師活用した語学研修や、異文化理解についてアメリカ総領事の講話、県の歴史文化についての研修を実施した。</p> <p>②モンタナ州立大学及びカリフォルニア州立大学チコ校で研修を実施するとともに、研修内容の均一化を図るため、委託先担当と両大学受け入れ担当者のプログラムミーティングを実施した。</p> <p>③現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させ、実際の研修時においては、引率教諭からの研修状況や生徒の様子等についてまとめたものが委託先担当者より報告があった。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026人 (26年度)	1,358人 (27年度)	1,692人 (28年度)	↗	—
状況説明	海外留学・交流派遣者数は、H24年度→272人、H25年度→291人、H26年度→339人、H27年度→332人、H28年度→334人と推移している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。</li> <li>・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について、前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。</li> <li>・選考試験における書類選考時の英語能力資格等の実績については得点のウエイトを高める必要がある。また、面接試験内容について更なる語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要性がある。</li> <li>・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。</li> <li>・受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	海外サイエンス体験短期研修 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	355	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながら、ともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りをする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	25名 派遣数				→	→	県
	県内理系高校の生徒を外国の高等学校へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させる						
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
海外サイエンス 体験短期研修	12,777	12,566	カナダ・ブリティッシュコロンビア州ビクトリア市へH29年3月2日から3月13日の12日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図った。また、研修効果を高めるため、事前、事後研修も行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣者数			25人(生徒25人) (平成28年度)	25人(生徒25人) (平成28年度)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	派遣者数は計画値どおり実施できた。 学術分野での交流を行うことにより、海外の大学等への進学に対する意欲の喚起が図られた。 引率教諭(理系教員)は海外の教員との交流を通して、国際的な理系分野教育の実情を学ぶことができた。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
海外サイエンス 体験短期研修	12,683	研究機関等の訪問、現地高校・大学等での理数系科目の授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを行う。また、本研修内容の効果を高める事前・事後研修を行う。(派遣者数 高校生25人)	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①事前研修において、派遣生、引率教諭を対象とした外国語講師を活用した語学研修や異文化理解についての研修を多く取り入れる。</p> <p>②理数系分野における各種大会での実績や検定等の実績を選考基準の中での占める割合を再考するとともに、理数系教育研究会から各種大会・コンテスト等における優秀者等の情報提供等を含め連携を図る。</p> <p>③派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の安全性を把握する。</p>	<p>①東大や筑波大大学院博士課程在籍の外国出身学生によるサイエンスイマージョン(英語で学ぶ科学)授業を取り入れるとともに、本県の歴史や文化等についての講義を取り入れた。</p> <p>②SSH研究指定校や理数系教育研究会から各種大会・コンテスト等における優秀者等の情報提供(校長、研究会会長より推薦)を頂いた。</p> <p>③現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させ、実際の研修時においては、引率教諭からの研修状況や生徒の様子等についてまとめたものを委託先担当者より報告があった。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026人 (26年度)	1,358人 (27年度)	1,692人 (28年度)	↗	—
説 明 況	海外留学・交流派遣者数は、H24年度→272人、H25年度→291人、H26年度→339人、H27年度→332人、H28年度→334人と推移している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での授業参加等をより高いレベルで推進する為には、派遣生徒全体の語学力及び積極性を高める必要があるとともに、引率教諭については、現地教諭とのコミュニケーションのための語学力が必要となる。また、研修内容にホームステイを含むことから異文化理解についての研修を実施する必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣生徒、引率教諭を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容の充実を図る。</li> <li>・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修において、派遣生、引率教諭を対象とした外国語講師を活用した語学研修や異文化理解についての研修を多く取り入れる。</li> <li>・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の安全性を把握する。</li> </ul>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	中国教育交流研修 (グローバルリーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	356	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながら、ともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を通して、中国への更なる興味関心を高める。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	20名 派遣数				→		
	高校生を中国へ派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を実施					→	県
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
中国教育交流研修	7,761	7,627	中華人民共和国上海市へH29年3月4日～3月17日の2週間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、興味関心を高めた。また研修効果を高めるため、事前研修及び事後研修を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣数			20人(生徒20人)	20人(生徒20人)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	派遣者数は計画値どおり実施できた。 現地高校での授業参加、文化分野での交流を図り、将来、中国との架け橋となる観光人材の基礎作りや海外の大学等への進学に対する意欲の喚起が図れた。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
中国教育交流研修	7,603	中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を行い、興味関心を高める。また研修効果を高めるため、事前研修、事後研修を行う。(派遣者数 高校生20人)	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を4回実施し、語学の充実を図るとともに、事後研修等において、事前・本研修で学んだ語学力の達成状況を確認する目的のもと中国語検定取得を目指すなど、研修全体を通じた語学力の向上を図る。</p> <p>②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>	<p>①選考試験において昨年度に引き続き中国語によるプレゼンテーションを実施し、選考時から語学能力の向上を図るとともに、事前研修においても現地での交流会やホームステイ等を想定した語学研修を実施した。</p> <p>②現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させ、実際の研修時には、委託業者や引率教諭からの研修状況や生徒の様子等についてまとめたものを委託先担当者より報告があった。</p> <p>③沖縄県上海事務所長の講話や上海県人会との交流会を実施した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026人 (26年度)	1,358人 (27年度)	1,692人 (28年度)	↗	—
状況説明	海外留学・交流派遣者数は、H24年度→272人、H25年度→291人、H26年度→339人、H27年度→332人、H28年度→334人と推移している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、派遣生徒全体の語学力を高める必要がある。</li> </ul> <p><u>○外部環境の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。</li> <li>・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を4回実施し、語学の充実を図るとともに、事後研修等においては、事前・本研修で学んだ語学力の達成状況を確認する目的のもと中国語検定取得を目指すなど、研修全体を通じた語学力の向上を図る。</li> <li>・受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>
--



## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流・経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト	実施計画 記載頁	356	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながら、ともに発展していくという取り組みの中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄とハワイ双方の地において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重できる、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	派遣数25名 受入数25名				→		県
	沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受入による交流を実施					→	
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
(派遣) 沖縄県高校生海外雄飛プログラム	9,994	9,994	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ州への高校生派遣(25名)</li> <li>・ホームステイ及び現地高校での授業体験</li> <li>・平和学習(アリゾナ記念館訪問)</li> <li>・観光業研修(JALPAKハワイ、ポリネシアカルチャーセンター)</li> </ul>	一括交付金 (ソフト)
(受入) 沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト	519	410	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ州高校生の受入(12名)</li> <li>・平和学習(平和祈念資料館、ひめゆり平和資料館訪問)</li> <li>・名護高校生、那覇国際高校生との交流会</li> <li>・沖縄の文化学習(沖縄ワールド訪問)</li> </ul>	県単等
活動指標名			計画値	実績値
派遣数			25名 (28年)	25名 (28年)
受入数			25名 (28年)	12名 (28年)

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
やや遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣に関しては、計画値25名に対し実績値25名で順調であるが、受入に関しては、計画値25名に対し実績値12名で大幅遅れである。そのため事業全体ではやや遅れとなっている。</li> <li>・ハワイでのホームステイと学校生活を通して、語学力の向上と異文化理解の促進を図ることができた。</li> <li>・平和学習を通して、「平和とは何か」について多面的に考えることができた。</li> <li>・観光業研修を通して、沖縄のツーリズムを担う人材育成を図ることができた。</li> <li>・本県高校生がホストファミリーとしてハワイ州高校生を受け入れ、家庭と学校で共に生活し、相互理解を深めることができた。</li> </ul>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
(派遣) 沖縄県高校生海外雄飛プログラム	7,825	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ州への高校生派遣(25名)</li> <li>・ホームステイ及び現地高校での授業体験</li> <li>・平和学習(アリゾナ記念館訪問)</li> <li>・観光業研修(JALPAKハワイ、ポリネシアカルチャーセンター)</li> </ul>	一括交付金(ソフト)
(受入) 沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト	519	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ州高校生の受入(25名)</li> <li>・平和学習(平和祈念資料館、ひめゆり平和資料館訪問)</li> <li>・名護高校生、那覇国際高校生との交流会</li> <li>・沖縄の文化学習(沖縄ワールド訪問)</li> </ul>	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①本県の観光産業を支える人材を育成することを目指して、ツーリズム関連研修と平和学習、沖縄及びハワイの歴史・文化・伝統を学ぶ研修を実施する。</p> <p>②三者の連携網を確立し、議論の深化、情報共有を図る。</p>	<p>①委託業者との連携を密にし、充実したツーリズム等の関連研修を実施することができた。ホノルル市内ではハワイと沖縄の観光の違いを講話と実地研修から学び、意見を共有した。また、ポリネシアカルチャーセンターでは現地文化を学ぶと共に、観光施設のあり方についてグループ討議を行った。</p> <p>②委託業者及びハワイ沖縄連合会担当者との連携を密にし、ハワイ州高校生への早期周知と参加者の確保を依頼した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	124名 (23年度)	1,692名 (28年度)	1,494名	1,568名	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026名 (26年度)	1,358名 (27年度)	1,692名 (28年度)	↗	—
状況説明	<p>派遣事業においては、派遣人数の上限が25名であるため、選考により25名に絞っている(H28応募者数198名)。</p> <p>海外留学・交流派遣数は、H24年度→272名、H25年度→291名、H26年度→339名、H27年度→332名、H28年度→334名と増加しており、平成28年度目標値1,494名は達成できた。</p>				

### 3 取組の検証(Check)

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・観光立県を標榜する本県の観光産業を担う人材を育成するため、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。

##### ○外部環境の変化

・平成25年頃からの円高によりハワイ州高校生参加者数へ影響がでた。(H24年度21名→H25年度12名→平成26年度16名→平成27年度15名→平成28年度12名)。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣プログラムの内容を更なる充実を図る。
- ・受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとの連携強化を図る。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・本県の観光産業を支える人材を育成することを目指し、ツーリズム関連研修と平和学習、沖縄及びハワイの歴史、文化、伝統を学ぶ研修を実施する。
- ・受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとのネットワークを確立し、プログラム内容の拡充について議論の深化と情報共有を図る。

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	芸術文化国際交流(書道) (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	356	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10人 派遣人数	20人			→	→	県
	高校生を台湾に派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	3,900	3,900	書道分野で活躍する高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。 台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国語文学科にて張丙高教授からデジタル書法の指導を受けた。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣人数 (国際交流事業への派遣者数)			20人 (28年)	20人 (28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	高校生の派遣人員をH28も20名で実施した。 台湾での現地交流で、基礎基本の大切さを実感するとともに、書の文化にも違いがあることに刺激を受け、書道に対する理解がより深まっていた。 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるには英語力が必須であるということを感じ、これから英語を学ぼうとする姿勢がみられた。 また、実際に見聞きすることで相互理解が進み、国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 さらに、事後研修を合同成果報告会という形で、実施することで他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	3,596	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①メンバーも変わることが多いので、昨年度の実施を検証し、課題点を洗い出したうえで、話し合いの場を設定し、実施に向けた計画をたてる。</p> <p>②うがいや手洗いを徹底するとともに、持病のある生徒は担当の医者に看てもらったうえで薬を処方してもらおうなど、万全を期して本研修を迎えるようにする。</p> <p>③平成27年度の反省を活かして、事前調整のときは、綿密に行程等を検証する。</p>	<p>①2次選考会の後に各部門で事前研修、本研修の内容など、昨年度の課題について協議した。1月には4部門の専門委員長を集め、昨年度と今年度の課題点を踏まえ、次年度に向けての話し合いを実施した。またメールにて随時各部門の専門委員長と次年度の準備を進めている。</p> <p>②3部門では、万全を期して本研修を実施できたが、1部門はインフルエンザ等体調不良者が数名、本研修中に発症した。時期の見直しも必要と考える。</p> <p>③反省を活かし、事前調整で綿密な行程の見直しができ、本研修はスムーズに実施できた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H29目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(単年度)	80人 (26年度)	79人 (27年度)	80人 (28年度)	→	—
状況説明	<p>27年度に引き続き、書道分野20名を台湾へ派遣した。音楽、美術・工芸、郷土芸能分野60名を含めると、平成28年度は80名を派遣した。</p> <p>派遣された高校生は、貴重な国際交流を体験したことで、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、少なからず海外(外国)への関心が高まった。また、書道に対する考え方や取り組みに大きな影響を受けた。</p> <p>今後も、本事業の取組を継続していく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟及び専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。</li> <li>・交流の際に必要な語学力が十分でない。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。</li> <li>・交通状況等により研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。</li> </ul>
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連と専門部、旅行社との密に連携を図る。</li> <li>・事前研修での語学研修を今年度の2~3時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。また、現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。</li> <li>・交通状況や生徒の体調配慮のため、ゆとりある日程の検討する。</li> </ul>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流等の推進			
主な取組	芸術文化国際交流 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	356	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながら、ともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生をシンガポール等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体  県
	60人 派遣数				→	→	
	高校生をシンガポール等へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	24,383	24,383	「音楽」「美術・工芸」「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をシンガポール及びオーストリアへ派遣し文化交流を実施した。 シンガポールでは郷土芸能部門が、国立ミレニア・インスティテュート校と交流した。 オーストリアでは音楽部門が、ウィーン国際音楽セミナーで個人レッスンを受講し、美術・工芸部門が、造形アカデミー卒業生から絵画レッスンを受けたり、合同でギムナジウム・ヘーゲルガッセ校と交流した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣人数 (高校生の短期研修)			60人 (28年)	60人 (28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能の各分野について、総勢60人を派遣することができた。参加生徒は、外国でのコミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、相互理解が進んだ。 1部門はインフルエンザ等体調不良者が数名、本研修中に発症したが、大きな事故やけがもなく、派遣生徒が現地の学校との交流やレッスンを受講できた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	24,804	「音楽」、「美術・工芸」、「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施する予定。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①体調を崩す生徒がいないように、うがい・手洗いの徹底や、事前にインフルエンザ注射を打つように指導を行う。同時に、マスクの着用を徹底する。 ②派遣先国について、安全性及び先進性を考慮し、郷土芸能分野ではシンガポール以外の国についても検討する。 ③美術・工芸、音楽分野では、現地交流校や実技体験の受け入れが困難なため、オーストリア以外の国についても検討するが、外交情勢を見極め、安全性については常に検証を行う。	①生徒への体調管理の声掛けと事前調整で行程を検証し、うがい・手洗いの徹底するとともに、ゆとりを持たせた日程にした。 ②安全性、先進性、郷土芸能分野の特性を考慮し、次年度はアメリカ(ハワイ)での派遣を実施予定。 ③音楽分野では、オーストリアと同程度の研修効果が期待できるドイツ研修、美術・工芸分野は、台湾研修を予定しているが、国際情勢による安全性に様子をみながら実施予定。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(単年度)	80人 (26年度)	79人 (27年度)	80人 (28年度)	→	—
状況説明	27年度に引き続き、音楽、美術・工芸、郷土芸能3分野60名の派遣した。現状値は、書道分野20人を含む80人を派遣することができた。 派遣された高校生は、この貴重な国際文化交流をとおして、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、海外(外国)への関心が一層高まった。 今後も、本事業の取組を継続していく。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の際に必要な語学力が十分でない。</li> <li>・本研修先は環境が変わるので、インフルエンザや風邪などの病気をすることがないように事前の注意が必要である。</li> <li>・生徒間の人間関係の構築や実技披露練習にかかる時間配分が多くなならないよう事前研修の内容を充実させる必要がある。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の派遣先であるオーストリアはヨーロッパの中では比較的安全だと言われているが、今後も社会情勢に十分注意し、受け入れ先国の情勢を注視する必要がある。</li> <li>・外国内の移動距離が長くなるため、生徒に体力的な負担がかかる。</li> <li>・オーストリアは国の規模が小さいこともあるが学校数が少ないため、交流を受け入れてくれる高校を探すのが困難である。</li> </ul>
--

## 様式1(主な取組)

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・体調を崩す生徒がいないように、マスクの着用等、指導を徹底する。
  - ・体調に無理が出ないように、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
  - ・県議会の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。
- 実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流先の検討を行う。
- ・音楽分野の派遣先をオーストリアから①近代楽器の指導者からレッスンを受けられる、②日本の高校に相当する学校との交流が実施しやすい、③県立芸大と姉妹提携大がある国、等の条件を満たしている国を検討する。

## 4 取組の改善案(Action)

- ・最初の事前研修で4部門合同の宿泊研修を計画し、より一層の事前研修の充実を図る。
- ・語学研修を今年度の2~3時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。
- ・現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。
- ・本研修を北半球では気候のよい10~11月に設定し、充実した研修日程と体調不良者対策等を図る。
- ・音楽分野はオーストリアからドイツに変更することで、古典楽器指導者から現代楽器指導者からのレッスンへの改善を図り、また音楽の研修地の充実(世界3大Bといわれるベートーベン、バッハ、ブラームス)を図る。



## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	②観光交流、経済交流等の推進			
(施策の小項目)	○学術・文化・地域間交流の推進			
主な取組	海外交流拠点形成(英語立県沖縄推進戦略事業)	実施計画 記載頁	356	
対応する 主な課題	○歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	高校生の国際交流を促進するため、海外における交流拠点形成のための関係教育機関との調整を図り、視察・検証を行うとともに、学校間姉妹校締結を推進・支援する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	5地区 提携地区	6地区	10地区	→	→	→	県
	海外交流拠点形成のため、外国の教育機関等と交流意向書を締結し、高校生の国際交流を推進					→	県
担当部課	教育庁県立学校教育課						

### 2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
英語立県沖縄推進戦略事業	1,500	1,315	米国モンタナ州及びカリフォルニア州への派遣生徒の視察を行うとともに、交流意向書締結に向けてカリフォルニア州チコ郡の教育機関と協議を行った。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
提携地区数			10地区	6地区
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
やや遅れ	短期研修事業と長期留学事業において派遣を行っている地域に引き続き研修を受け入れてもらった。引き続き、本県高校生の海外研修が充実するよう取り組んでいく。新たな地域と協定を結ぶのではなく、すでに沖縄県教育委員会と協定を結んでいる6地区の高校と本県の高等学校の姉妹校意向書締結の取組に重きをおくようにした。また、新規の提携地区としてカリフォルニア州チコ郡との調整を行った。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
英語立県沖縄推進戦略事業	1,600	国際交流推進委員会で協議を重ねアイデアをだしながら、新規の国際交流拠点づくりを計画する。H29年度中の交流意向書締結を目指し、カリフォルニア州チコ郡と引き続き調整する。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度取組改善案	反映状況
<p>①交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねる。より具体的な支援策を提供していく。また必要があれば学校訪問も実施する。</p> <p>②カリフォルニア州チコ教育委員会と沖縄県教育委員会で交流意向書の締結についても検討している。</p>	<p>①小祿高校が国際交流推進委員会と連携しながら、米国カリフォルニア州のレイシス高校と姉妹校交流意向書を締結した。</p> <p>②カリフォルニア州チコ教育委員会を訪問し、交流意向書締結に向けて協議を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外留学・交流派遣数(累計)	1,026人 (26年度)	1,358人 (27年度)	1,692人 (28年度)	↗	—
状況説明	<p>アメリカ2地区、中国2地区、オーストラリア1地区、カナダ1地区、計6地区の教育機関と交流意向書の締結を行い、県主催の海外短期研修事業(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)において、アメリカ2地区、中国1地区、オーストラリア1地区へ派遣を行った。今後は提携地区の増と、提携地区の高等学校と県内高等学校との姉妹校締結に向けての取組を図っていく。</p> <p>海外留学・交流派遣者数は、H24年度→272人、H25年度→291人、H26年度→339人、H27年度→332人、H28年度→334人と推移している。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <p>・すでに、交流意向書を締結している地域に対して、交流の継続について意思確認をするとともに、さらなるプログラムの推進が図れるか検討を行っていく。新たな地域と協定締結に向けて取り組みながら、すでに沖縄県教育委員会と協定を結んでいる6地区の高校と本県の高等学校の姉妹校意向書締結に向けても重きをおくようにした。</p> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <p>・インターネットの進化により、SNS等での国際交流が可能となり、学校現場でも取り入れる傾向が見られる。</p>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・交流意向書に基づき、生徒の研修等で派遣をする際に、効果的なプログラムが実施されているか検証を行う。国際交流推進委員会において、新規の意向書締結に向けて協議を続けていく必要がある。</p>
---

4 取組の改善案(Action)

<p>・交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねる。より具体的な支援策を提供していく。また必要があれば学校訪問も実施する。</p> <p>・カリフォルニア州チコ教育委員会と沖縄県教育委員会で交流意向書の締結に向けて調整を続けていく。</p>
--